

甲府市在宅医療・介護連携推進会議
第1回 ACP 作業部会（多職種連携 WG）議事録

日 時 令和7年5月12日（月）午後6時30分～午後7時40分

会 場 甲府市役所本庁舎4階市民対話室

出席委員 4人

事務局 地域包括支援課長、地域包括支援課課長補佐、地域包括支援課担当

（司会：地域包括支援課担当）

1 開会

2 座長、副座長の選任

座長副座長の選任を行う。他の委員より異議なし。

3 議事

【座長による出席者数の確認】

委員6名中4名が出席しており、過半数を満たしているため、本会議は成立。

議事（1）今年度の ACP グループの活動について検討

（事務局より）

- ・資料12ページをご覧ください
- ・今年度の多職種連携ワーキンググループは、「ACPの普及啓発に関するグループ」「支援困難感への対応を強化する事例検討グループ」に分けてより具体的な内容の検討行う。
- ・市民へのACPの普及啓発では、11月30日の「いい看取りの日」に合わせ、11月広報での特集記事の掲載を提案したい。その他医療介護関係者に対するACPの普及啓発に関することを含め、今年度のACP作業部会として取組みたいことがあれば、ご意見を伺いたい。また取組みたい内容が複数出た場合は、優先順位を検討したい。

議事（2）11月の広報掲載に向けた検討

（事務局より）

- ・現在担当課に11月広報での特集記事の掲載の希望を伝えている。実現するかは現段階では不明だが、今年度実現しなかった場合でも、来年度に検討内容を活かしていきたい。
- ・広報掲載時に内容について、資料1をご覧ください。広報掲載時内容・構成について相談したい。他市の広報を参考にする中では、在宅療養を行ったご家族やACPの場面をピックアップした内容（案①）と、在宅療養を支える多職種にインタビューした内容（案②）があった。それらを参考にしながら、事務局より案①、案②を提案させていただいた。案に限らずどのような内容が良いか協議していただきたい。

（座長）

- ・議事（1）、（2）についての委員の意見を確認する。

市民への普及啓発

（委員より質問）

- ・市民に対してACPが普及しきれていない感覚があるが、市民からACPや人生会議について問い合わせはあるのか。

(事務局より)

・ACP や人生会議の内容に関する問合せはほとんどないが、わたしの想いのノート（以下：ノート）が欲しいという内容の問合せは多数あった。関係団体だけでなく、市民の方からの直接の問い合わせもあり、主観であるが想定していた以上の反響があったと思う。

(委員)

・健康な人は、介護保険などの制度や、施設などの生活の場の選択肢について知らないことが多い。ACP の普及啓発も大事だが、同時に制度や選択肢を増やすための情報を伝えていくことも必要だと思う。

(委員)

・ノートの内容もシンプルで分かりやすいと思う。関心が高い住民はその後の研修会に参加していたり、他団体の集まりでも配布してくれたりしている。

(座長)

・ACP・人生会議＝「ノート」ではないが、ACP をより深く理解する過程としてノートをひとつのツールとして活用し、今後の生き方を考えるきっかけにつなげていければ良いと思う。
・ACP や介護に関する情報を知っている人を増やすことが必要。専門職からの普及啓発により、全員が同じように情報を知ってもらうことが理想であるが、住民同士の口コミ的な形で知っている人が増えていけると良いのではないかな。

(委員)

・ノートの普及啓発していくひとつの方法として、お薬手帳とノートを一緒に持ち歩けるケースがあると、より生活に馴染むものになるのではないかなと思う。

医療・介護関係者に対する ACP の普及啓発・促進

(委員)

・病院でも ACP の普及に向けて取組をしているが、今後のことは話しにくいという声も聞かれる。病院側の ACP の理解がまだ不十分と感じる。職能団体でも ACP に関する研修を行ったが、繁忙期だったこともあり参加者が集まらなかった。医療介護関係者の研修会離れもある中では、市民と医療介護関係者の両側面からの普及啓発が必要である。

(委員)

・医療従事者が ACP について理解が深まるような企画（事例検討や動画作成）ができると、イメージを持ちやすくなるのではないかな。

(委員)

・患者から相談された時に、「患者自身はどうしたいのか」を専門職の立場から落ち着いて聞けるようになると良いと思う。誰に相談しても、本人の想いをまず聞けるような専門職が増えると ACP もより広まると思う。

・現場だと本人の意向＜家族の意見になりやすい。「家族に迷惑を掛けたくない」＝「家族言うとおりで良い」となってしまうこともある。「本当は～だけど、家族に迷惑を掛けたくない」という本人の想いが確認できると良い。

・命を助けることが主な現場だと本人の想いを聞くことが難しい場面もある。そのような時に家族や専門職が、ノートに書いてあることを参考にし、一緒に本人の想いに沿う支援がで

きると良い。

広報掲載に向けた検討

(全委員より)

・市民への ACP の普及啓発という点では、広報への掲載は効果があるのではないかと。広報に特集を組むことは賛成。

(委員)

・広報では、ノートを実際に使った方の体験談などが聞けると、ACP やノートを身近に感じられると思う。

(委員)

・参考資料として配布された ACP に関する他市の広報は分かりやすかった。住民に ACP や人生会議について説明するよりも、ノートをお渡しした時の方が反応は良いと感じる。ノートを活用した内容を広報に掲載できるとより身近に感じてもらえるのではないかと。広報には、既にノートを使った経験のある人等のリアルな声を載せられるとなお良い。

(委員)

・人生会議というところ少し取り掛かりにくいですが、ノートがあると ACP を行うきっかけになると思うので、広報掲載時はキーワードを検討した方が良い。伝えたい内容が伝わる分量で読みやすくする工夫も必要。

・公民館にも ACP やノートに関するポスターやチラシが設置してある。しかし、他の配布物もある中では、そこまで目立たない。広報掲載と合わせて、地区チラシも配布できると良い。ポスターも目立たせたい。

(事務局より)

・ACP を実際に行った住民の体験談を聞きつつ、専門職が住民の意思決定にどのように支援したかという内容も含まれると、住民も困った時には専門職に相談すれば良いということを知ることができるのではないかと。また専門職にも ACP に関わるイメージが持てるのではないかと。

・実際に住民や各専門職にインタビューを行う場合は、委員の皆さんに協力をいただきたい。

(座長)

・専門職に関する内容を入れる場合、市民目線（専門職からどのような助言をもらい、どう自身の ACP に活かしたのか）か、専門職目線（対象者が ACP を行うにあたりどのような情報を提供したのか）の内容にするかは工夫が必要かもしれない。

議事（１）（２）まとめ

・今年度の ACP 作業部会としては、市民への普及啓発として広報掲載に向けた内容の検討をしていく。内容としては、ACP を行った住民やその家族へインタビューを行う。また ACP の体験談の中で、専門職の関わりに関する内容も含めていく。

議事（３）その他

・令和 7 年 7 月 15 日（火）18 時 00 分より、全市版の顔の見える関係づくり交流会を開催する。

・内容は事例検討作業部会で検討しているが、多職種連携ワーキンググループとしてグループワークでのファシリテーターの協力を依頼等協力いただく場面が出てくると思うが、ご了承いただきたい。

4 閉会